



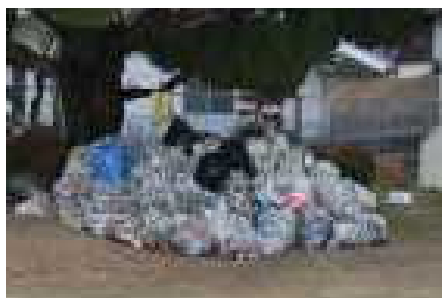
新本っ子

学校通信 No. 48
令和5年1月発行
新本小学校

【学校教育目標：豊かな人間性をもち、実践力のある子どもを育成する】 令和5年1月17日

新 自分で考える子 **本** 本気で取り組む子 **義** きまりを守る子 **民** みんな仲良く元気な子

資源回収ご協力 ありがとうございました！！



15日(日)の資源回収に際し、PTA評議員の皆様には寒い中、早朝よりご参加いただき、誠にありがとうございました。お陰をもちまして、能率よく無事実施することができました。

保護者、地域の皆様におかれましても、雑誌、古新聞、空き缶などの資源、運搬等のご協力、誠にありがとうございました。



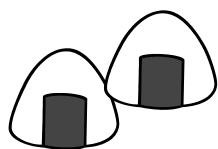
こうした温かいご支援に支えられ、得られた貴重な収益金であることを心に留め、児童の教育活動、PTA活動の充実のため、大切に使用させていただきます。

学校給食週間について【朝礼講話(1月16日)】

(前略)

来週の1月24日から全国一斉に全国学校給食週間が始まります。この期間中、全国の小・中学校では、給食の意義や役割について考える学習や行事が行われます。今日は、なぜこの週が学校給食週間になったのか、お話をします。

学校給食の始まりは今から約130年前の明治22年(1889)。山形県、鶴岡町(現在の鶴岡市)の私立忠愛(しりつちゅうあい)小学校で、家庭が貧しくてお弁当を持って来られない子どもたちのために、学校を建てたお坊さんがお昼に、おにぎりや焼き魚、漬け物を出したのが始まりとされています。



その後、給食は全国に広がっていきました。しかし昭和16年に、太平洋戦争が始まると、日本中で食糧不足が深刻になり、学校給食も中断されてしまいました。

昭和20年に戦争は終わりましたが、食糧不足はまだまだ続いていました。食べるものはおかゆに雑穀やいもをまぜたものなど、とても貧しい食事だったそうで、当時の6年生の身長は、今の4年生ほどしかなかったそうです。

こうした状況の中、日本の子どもたちを食糧難から救うために、アメリカの支援団体などから、脱脂粉乳や小麦粉、缶詰などの救援食料が届けられました。これらの食料を使って、学校給食が再開されることになりました。

昭和21年12月24日、東京の小学校で救援物資の贈呈式が行われたのを記念して、この日を「学校給食感謝の日」と決めました。

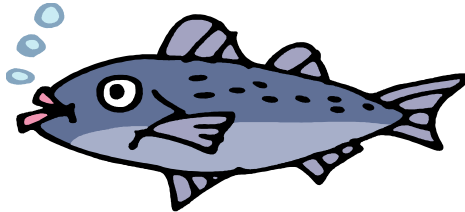
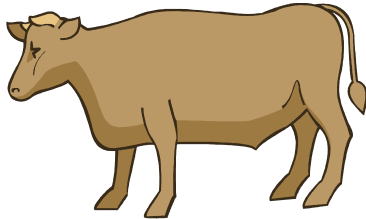
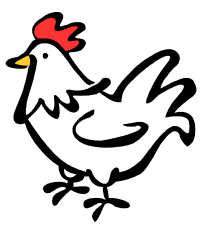
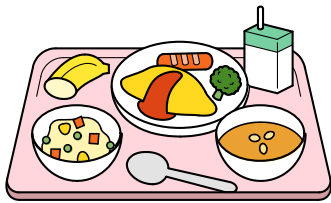
しかし、12月24日は冬休みに入ってしまうため、1か月後の1月24日からの週を「全国学校給食週間」とすることに決めました。

給食が再開された頃の給食は、脱脂粉乳のミルクやコッペパンにおかずなどでした。当時の給食を、今皆さんが食べたら「おいしくない」と感じるかもしれません。しかし当時は食べ物があるだけで幸せでした。



今の給食は様々なおかずに、ご飯や麺も登場し、時々デザートもついてきます。本当においしいですね。こうして、毎日おいしくいただいている給食は、給食センターの先生や調理員さんを始め、配送の方々などたくさんの方々に支えられています。

また、私たちが食べている食べ物は、もとをたどれば全て生き物です。肉や魚、お米や野菜など、動物や植物の命をいただいています。



食べ物になった命のおかげで私たちが生かされていると考えると、食べ物を無駄にはできませんね。

こうしたことを考え、給食に携わっているすべての方々や食べ物に感謝して、大切に食べていきたいと思えます。